



園児・児童・生徒が協力して植樹を行ったグリーン・タッチ(上2枚) フラワーマスター協会の役場前花壇植栽(右)

緑豊かな町にしたい

弟子屈町植樹祭 グリーン・タッチ フラワーマスター協会植栽

緑化推進委員会から感謝状を贈られるクニオカ工業



手際よく作業を進める(弟子屈町植樹祭)

弟子屈町植樹祭「森林は、自然の貯金箱」が6月1日、摩周4丁目の羽田里山公園で行われました。緑のふるさとづくりを目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年行われています。今回も二トリ北海道応援基金の助成を受けて開催されました。植樹祭には、各自治会や関係者など約100人が参加。エゾヤマザクラやミズナラなど4種類、約150本を植樹しました。また、緑化推進委員会に対して毎年寄付を行っているクニオカ工業(株)(岡岡雅文代表取締役)に対し、感謝状が贈呈されました。

6月2日には、町内園児・児童・生徒による植樹活動「グリーン・タッチ」が行われました。昨年まで行われていた一斉清掃活動、クリーンタッチの継続事業で、ふるさとの自然環境を守り、育てていく意識をさらに深めてもらう目的で、今年初めて行われたものです。あいにくの雨模様の中、旧国立病院跡地など町内8カ所で、約1千人が世代を超えて一緒に、エゾヤマザクラやモミジ、クルミなど366本を植樹しました。

6月9日には、フラワーマスター協会(渡辺昇会長)の皆さんが役場庁舎前花壇の植栽を行いました。皆さんに花を楽しんでほしいと毎年行っているもので、今年で16回目。サルビアやマリーゴールド、ペチュニアなど約400株を丁寧に植えていました。



ペンション民宿等ネットワークの池の湯清掃(上) 明盛建設の鍋別川河川敷清掃(下)

地域の役に立ちたい

たくさんの社会貢献活動



開成建設の弟子屈小学校グラウンド整備(上) 東星渡部建設の川湯中学校グラウンド整備(下)

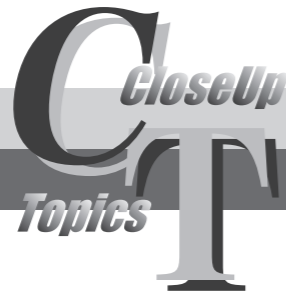
開成建設工業(株)(小澤由明代表取締役)の皆さんが5月10日、昭栄小学校のグラウンド整備を行いました。子どもたちの喜ぶ顔が見たいと、社会貢献活動の一環として毎年行っているものです。5月18日には弟子屈小学校、5月6日には町営球場のグラウンド整備も行っています。

5月22日には、東星渡部建設(山村五十三代表取締役)の皆さんが、川湯中学校のグラウンド整備を行いました。社会貢献活動として行ったもので、除草や転圧など、とても丁寧な作業を行っていました。

6月6日には、ペンションや民宿などの経営者で構成する摩周湖の郷ペンション民宿等ネットワーク(松室勲会長)の皆さんが、屈斜路湖畔の露天風呂「池の湯」の清掃と、花のプランターの設置を行いました。町の観光振興に寄与したいと始めたもので、今年で8回目。浴槽内の藻やごみを取り除いて清掃したほか、露天風呂の周りをマリーゴールドとペチュニア、サルビアの花々で囲みました。

6月18日には、明盛建設(藤田文明代表取締役)の皆さんが、鍋別川河川敷と道路沿いなどの清掃を行いました。社内安全大会の実施に合わせて、社会貢献活動として毎年行っているもので、10年以上になります。3つのルートに分かれて、火ばさみと袋を手にごみを拾い集めました。

町の話



町の話

町の話



町の話



握手を交わす東岸学部長(左)と徳永町長

相互発展を目指して

玉川大学農学部と町との連携協定

玉川大学農学部(東岸和明学部長)と町が、学術・環境保全・農林水産業振興・観光振興などの分野で連携、協力することを目的として、連携協定を締結しました。調印式は6月10日、役場で行われ、東岸学部長と徳永町長が協定書にサインしました。

同大は、町内に広大な農場や森林、寒冷地環境生物生産研究施設を持ち、町内を研究のフィールドとしています。これまでも、ワイン用ブドウの栽培や屈斜路湖の魚類調査などで、同大からの協力を得てきましたが、さらに環境と産業、地域社会の共生を目指して連携を深め、相互発展していきたいと協定を締結しました。

徳永町長は「玉川大学の皆さんは、38年にわたり町内で寒冷地における農業について取り組んできた。地域産業である農業の発展を中心に、子どもたちへの教育を含めて連携したい」と話し、東岸学部長は「北海道の大地から食糧を供給していくという町の務めをサポートし、また次世代の子どもたちが育っていく場の提供、提案をしていきたい」と抱負を語りました。



協定書にサイン



「ごみ見つけたよ!」小さな子どもたちも一生懸命ごみ拾い

ごみ拾いで心地よい汗

摩周湖クリーンウォーク2010



5年連続参加の弟子屈町建設業協会の皆さん

町主催の「摩周湖クリーンウォーク2010」が6月5日、町内各地の国道や道路沿いで行われました。

摩周湖周辺の環境保全対策やシニツクバイウエイ弟子屈エリアの活性化事業の一環として行われたもので、今年で5回目です。今回は一般町民の方や小・中学生、園児のほか、事業所などから約600人が参加。社会貢献活動として5年連続参加している弟子屈町建設業協会(辻谷智之会長)からは、約100人が参加しました。参加者は16のグループに分かれ、摩周湖や川湯温泉、仁伏などの8コース全50キロを歩き、空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを約560キロ集めました。

また今年も、弟子屈町建設業協会がトイレカーを2台提供したほか、弟子屈町未来子ども協議会の会員がお茶のサービスを行いました。

徳永町長は「たくさんの皆さんに参加いただき、また、皆さんの事業所に協賛いただいたことに、誠に感謝している」と話していました。



町内8コースで展開